

令和5年度山梨県生活習慣病検診管理指導協議会
胃がん・大腸がん・肝がん部会 議事録

1. 日 時：令和6年2月27日（火）午後6時30分～午後8時
2. 場 所：オンライン開催
3. 出席者：（委員）依田 芳起、雨宮 史武、窪田 良彦、榎本 信幸、安留 道也、
立川 祐司、原 初美、津金 永二
（事務局）清水健康増進課長 関係職員3名

4. 会議次第

- (1)開会
- (2)健康増進課長あいさつ
- (3)議題
- (4)その他
- (5)閉会

5. 議事内容

- (1)市町村の胃・大腸がん検診、腹部超音波及び肝炎ウイルス検査の状況について
 - ① 各がんの登録状況からみた評価のまとめ【資料1】
 - ② 市町村の胃・大腸がん検診、腹部超音波及び肝炎ウイルス検査の状況【資料2】
 - ③ 胃・大腸がん検診の実施体制【資料3】
 - ④ 山梨県がん検診成果向上支援事業【資料4】
- (2)市町村及び検診機関に対する助言方針について
 - ① 市町村及び検診機関に対する助言方針案【資料5】

6. 議事進行

【開会・部会長副部会長選任】

- ・要綱第7条第2項に基づき互選により依田委員を部会長に選任、依田部会長が窪田委員を副部会長に指名し選任された。
- ・以下、要綱第8条より依田部会長を議長として議事進行。

【議題】

(1)市町村の胃・大腸がん検診、腹部超音波及び肝炎ウイルス検査の状況について

- ・事務局から資料を用いて報告
- ・質疑応答
- (委員) 大腸がん検診では、便潜血検査で陽性になって精密検査が必要となっても「検査が痛い」と人から聞いているから嫌がる方、「痔だと思って放っておく」方がいる。
- (議長) 検診で1年ごとに指摘され「検査したのに」と嫌がる人もいる。例えば、陽性になった方には、検診当日に外来で精密検査の予約してもらえば、確実な精検受診につながると思う。かつて、直接保健師が出向いて予約をとる方法で精検受診率を上げようとしたこともあったが、全ての市町村では難しいだろうと思う。

(委員) ウイルス性の肝がんは減ったが、脂肪肝からの肝がんが増えているように思う。精検医療機関において肝硬度検査によるフォローアップしてもらうのも大事だし、新しい技術もあるので活用すべき。

(議長) 人間ドックでは、結果に応じて脂肪肝外来を勧めたりしている。

(2) 市町村及び検診機関に対する助言方針について

・事務局から資料説明の後、協議

(委員) 統一運用について、「精密検査医療機関を登録制」とするとの説明だが具体的には。

(事務局) 精検が可能な一次検診機関に登録を促し、登録機関をリスト化する。

現状、要精検者が検診機関を探す足がかりがないので、リストを活用したい。

(委員) 内視鏡の専門医がいないと登録できないのか。

(事務局) 「専門医の配置か、部会開催の従事者研修会への参加」を登録要件としたので、要件を満たすことは難しくないと考えている。

(委員) 大学病院では現状、かかりつけ医からの紹介で対応していて、患者が直接検診結果を持ってくることは想定していない。

(事務局) 大学病院では、かかりつけ医に検査結果を返しているのか。

(委員) 返書先が、かかりつけ医か検診機関か曖昧になっている部分があるので整理していただきたい。

(議長) 新規開業医療機関の拾い出しが大変そうだが。

(事務局) 制度をはじめることより、一覧の更新の方が大変だと考えている。統一運用の実施には、一次検診機関の協力が必須なので、継続して周知していきたい。

(議長) 精密検査受診者が増えることにより、検診機関が混雑した場合対応できそうか。

(事務局) 事前調査したが、ある程度のキャパシティは確保できていると考えている。

(委員) チェックリストの「×」を減らすためにも、統一運用を活用したい。

(委員) 検診の後、精検を受けられるまでの期間について、調査する必要があるのでは？

1～2ヶ月間隔が空くようなら、別に専門外来を設けて対応する手もあると思う。

(議長) 膵臓がんが疑われる場合は、間を開けず精検を受診する必要があるので、気をつけないといけない。

(委員) 小さい市町村が単独で受診勧奨するのは難しいので、市町村間で連携できる体制が必要ではないか。

(事務局) 市町村は肝も含め6がんに対応する必要があるので、可能な限りフォローしていきたい。

(議長) 今までの委員の発言を踏まえ、助言案とするがよろしいか。

(一同) (異議なし)

【その他】

- ・特になし

【閉会】